

平成 25 年 1 月 28 日

稲城市議会議長  
田 中 繁 夫 殿

稲城市議会建設環境委員会  
委員長 井 川 まちこ

### 建設環境委員会所管事務調査報告書

本委員会の所管事務調査について、調査した結果を、次のように報告します。

#### 記

#### 1 調査事件名

「i バスの観光への活用について」

#### 2 調査の目的

高齢者や交通弱者への社会参加の促進と、公共交通の利便性向上の寄与を目的に、市内の交通不便地域の解消や公共施設を結ぶための i バス事業が発足してから 10 年が経過した。

現状の利用形態をさらに発展させるために、市の特産品である梨、ぶどうを初め、市内の文化施設や観光資源の整理をし、路線変更や増便も検討課題としながら、市内外の方々に対して PR をするなど、i バスを観光へ活用することについて、研究することを目的とする。

#### 3 調査の経過

##### (1) 委員会開催日

##### ① 平成 24 年 3 月 14 日 (水)

特定所管事務調査「i バスの観光への活用について」を追加事項とすることに決定した。今後の進め方について協議した。(次回、市から説明を求めることに決定)

##### ② 平成 24 年 5 月 11 日 (金)

市より、i バスの観光への活用について、i バスの運行状況や近年の乗車人員の推移、市内の観光スポットを散策するモデルコースや観光事業につい

ての説明を受け、質疑を行う。委員より視察候補地に関する意見を発表した。今後の進め方について協議した。(視察候補地については正・副委員長に一任、日程については7月9日から11日の予定で調整)

③ 平成24年8月6日(月)

各委員より7月9日から11日に行われた先進市行政視察の意見・感想を発表した。今後の進め方について協議した。(9月の定例会中の建設環境委員会までに行政視察の意見書を提出してもらい、10月5日の建設環境委員会にて発表することとし、平成25年第1回定例会に報告書を提出することに決定)

④ 平成24年10月5日(金)

調査報告書のまとめについて、委員より意見の発表が行われた。(次回までに報告書のアウトラインを作成することに決定)

⑤ 平成24年11月8日(木)

調査報告書のまとめについて協議した。

⑥ 平成25年1月28日(月)

調査報告書を決定。

## (2) 委員派遣

平成24年7月9日(月)～11日(水)

兵庫県明石市、兵庫県三木市、奈良県橿原市の3箇所を委員7名を派遣し、市内観光施設を巡る社会実験運行の実施、土日運行観光ルートや往復乗車券と温泉入浴券のセット券等様々な取り組み、近接する観光地周遊バスとの乗り継ぎ路線等について調査した。

## 4 調査結果

### (1) iバスの現状

#### ①現在の運行状況について(4系統5路線を運行中)

- 1) 循環コース右回り
- 2) 循環コース左回り
- 3) 平尾団地～よみうりランド丘の湯
- 4) 平尾団地～稲城市立病院
- 5) はるひ野駅～稲城市立病院

iバスは、市内における交通不便地域の解消や公共施設を結ぶことにより、高齢者や交通弱者の社会参加を促進するとともに公共交通の利便性の向上に寄与することを事業目的としている。

#### ②車内アナウンスについて

現在、車内アナウンスは、バス停案内のみ実施している。

③ i バス車両の入れ替えについて

運行当初に稲城市が循環路線として購入した車両3台を、平成24年7月より順次、新車両に入れ替えている。新車両の側面に『稲城なしのすけ』のシールを貼り、市をPRしている。

(2) i バスを観光利用する上での地域資源

- ・名産品：稲城の梨、高尾ぶどう
- ・公園：稲城中央公園、上谷戸親水公園、若葉台公園、ひかりの広場、大丸親水公園等
- ・娯楽施設：よみうりランド、温泉・入浴施設
- ・その他：パブリックアート、三沢川沿い桜並木、弁天洞窟、大丸用水、稲城なしのすけモニュメント等

(3) 調査過程において出された各委員の意見

①観光資源のPRについて

- 1) i バスの観光マップの作成（現在の右回り、左回り等の路線名に対しての、親しみやすいネーミング）
- 2) 季節ごとや子供向けのiバス用の観光用パンフレットの作成
- 3) 車内への市内観光MAPやパンフレットの設置（ぶらり散歩など）
- 4) iバスの観光に対してのキャッチフレーズ（路線名へのキャッチフレーズ）

②民間との連携について

- 1) 地域の人たちに親んでもらうため、地元商店とのコラボレーション実施による、コミュニティバスの利用での特典の促進やクーポン発行等での連携の研究
- 2) 乗車した方に対して割引チケットを発行するなど、市内業者や商工会との提携の研究
- 3) 市内の温泉や入浴施設とのセット料金の設定による割引サービスの研究
- 4) フリーパス等のチケット販売
- 5) 季節限定でのスタンプラリーの実施（iバスに乗ってのスタンプラリー、子供は無料など）

③バスの車体や停留所を利用したPRについて

- 1) バス停やバス車内広告における、観光スポットのPR
- 2) なしのすけシールをより活用したバス車体のフルラッピング化（例：全面「梨」の図柄にするなど）
- 3) 市内における観光資源の再精査（バス停への表記、バス停自体の場所も関連）

#### 4) バス停名のネーミングライツの研究

##### ④ i バス車内でのPRについて

- 1) 車内アナウンスでの、名称に続いての詳しい観光のPR（歴史など）
- 2) 観光やイベント情報を充実するため、つり広告などへの車内広告

##### ⑤ わかりやすい路線図について

- 1) 路線の多様化に対して、路線図や行き先がわかりづらく、昨年整備された観光マップと関連した取り組みとの連携が希薄なため、バス停及びバス行き先を明確にするための、わかりやすい目印をつけるなどの工夫（色分け、キャラクター、ネーミング等）

##### ⑥ 観光への利用促進について

- 1) 土日祝祭日の、観光を目的とした運行の研究
- 2) 梨の収穫時期の特別便運行の研究
- 3) 市内自然観光ルートの整備
- 4) 市内の観光地の調査による、バス停の見直し
- 5) 年間のイベント調査による、i バスの特別便の検討（ジャイアンツ球場やコンサート等のみうりランドでのイベントとの連携）

##### ⑦ 運行形態について

- 1) 自治体間のコミュニティバス実現による、利便性の向上と交流
- 2) 基本的な循環バスの運行についての検討（右回り、左回りルート of 時間短縮）
- 3) 駅前整備後の、稲城長沼駅・南多摩駅への乗り入れの検討

## 5 まとめ

i バス事業は開始から10年が経過したが、導入当初の目的であった「市内における交通不便地域の解消や公共施設を結ぶことにより、高齢者や交通弱者の社会参加を促進する」という使命を果たすため、さらなる充実が求められている。

稲城市では本年度から商工観光係が新設され、観光についても、今まで以上に力を注ぎ始めたところである。市内の名所・旧跡等の観光資源については、掘り起こしや見直しの検証をする必要があり、視察で訪れた兵庫県明石市・三木市や奈良県橿原市で実施されていた市内観光施設を巡回するようなコミュニティバスの運行形態を稲城市に取り入れることは、観光事業に取り組んだばかりでもあり、課題も多いところである。

しかし、調査の過程において委員から出された意見にもあるように、i バスのルートに沿った観光マップの作成やi バス車内外での観光スポットのPR等、実現

の可能性があるものについては、検討の余地もあると考える。

さらに、現在、南武線の高架化事業が進められており、平成 25 年度末には完了する予定である。それに伴い、i バスの路線変更や増便が検討されており、市民の期待も大きいところである。

以上のことから、著名な観光地を有する自治体のコミュニティバスのように i バスを観光事業と結びつけるには課題があるが、本調査報告が、将来的には、i バスの充実と観光事業拡大両面の一助となり、i バスがさらに広く市民の足として利用されることを望み、報告とする。